

日記帳

二部 六年

乙葉裕子



二月七日 水曜日

朝食がすんでから、

「ホー——」

とかすかにさいれんの音が聞える。

「さいれんじゃない。」

「ほんとね。」

などと言っているとき、

「警戒警報発令。」

と先生がおっしゃった。私達は、直ちに防空服装に身を

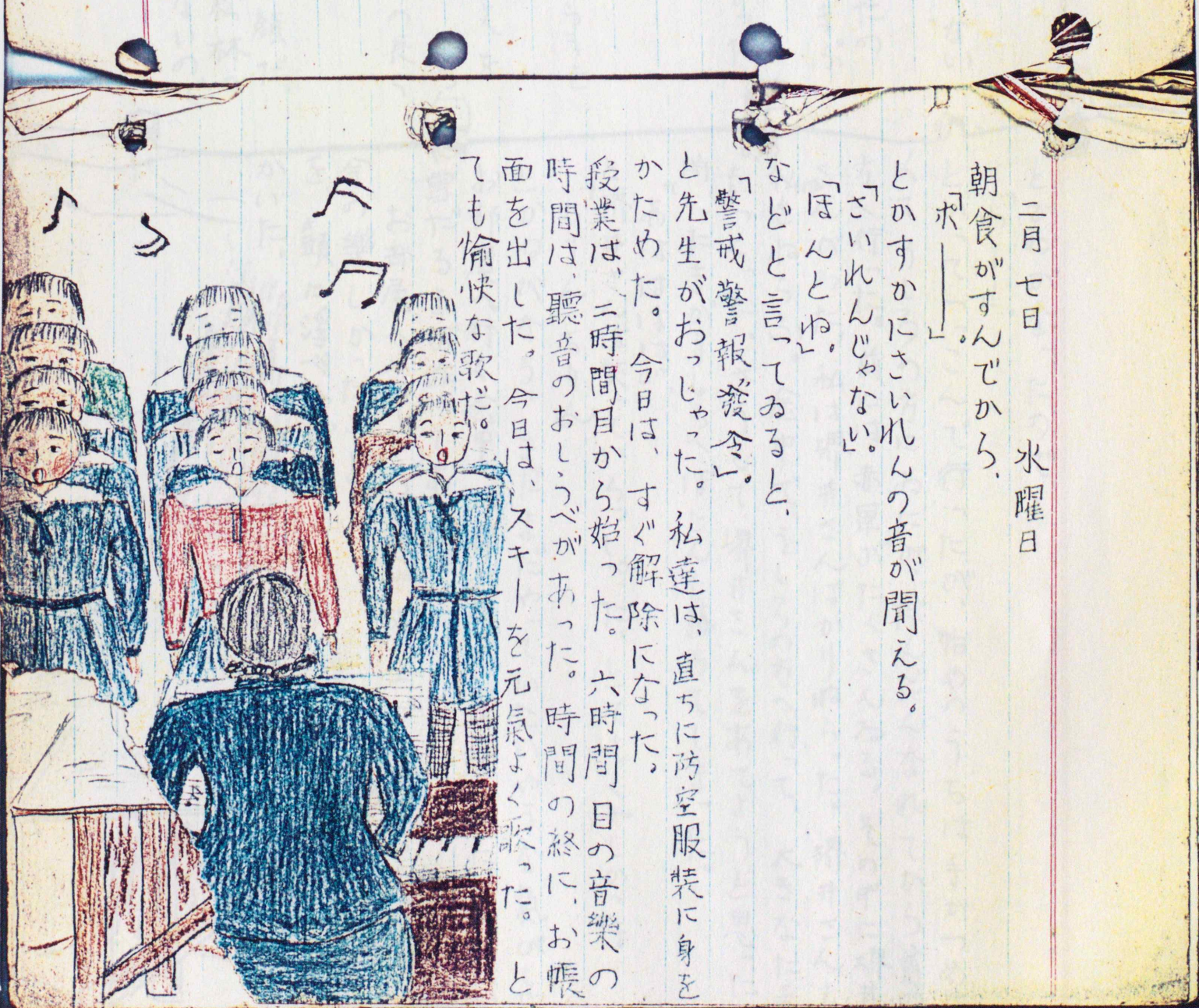
かためた。今日は、すぐ解除になった。

授業は、二時間目から始った。六時間目の音楽の

時間は、聴音のおしづけがあった。時間の終にお帳

面を出した。今日は、スキーを元氣よく歌った。と

ても愉快な歌だ。





二月八日

木曜日

朝目がさめると、部屋中がいやに明るい。  
「おや、ずいぶん明かいな。もう八時頃じゃないのかしら。」

と思った。お當番が、雨戸をあけていらったので、ちよつと外をのぞくと、外は、眞白で、まぶしいほどだった。

「雪だ。うれしいな。それで、マキは明かかったのだな。」

全員起床。

先生の聲。元氣よく飛び起きた。

郊外園行く時、私は下駄なので、下駄の裏にうをぬった。すると、ちつとも雪はつかなかった。

一時間目は、南方は遺軍の兵隊さんへ慰問文をかいた。二時間目は、雪合戦だ。田島さんは、かうだが悪くてやうないとおっしゃたので田島さんの長ぐつを、おかりした。私は白だ。

「白軍集れ！」

と八鍬先生がおっしゃった。みんなうれしそうな顔だ。前へ集合してから、島道を通って、松林の松林の方は、まだ、だれも通らないので

とかねがなつたので、

「わー。」

といって「っこんで」行つたが、始めのうちには手がつめたくてうしろの方にみたが、だんだんなれてから前の方へ行つた。前には赤軍がたくさんゐる。その中に堺井さんがゐた。私は堺井さんばかりぬらした。堺井さんも私をぬらふ。途中で、うしろの方へ行つて、大きなたまをつくつた。さうして、堺井さんをおてようと思つた時、たまがうしろへぽとんと落ちてしまった。

「あはははは。」

と堺井さんは笑つていらした。とてもくやしかった。

「ちりんちりん」

とかねがなる。まだまだやっていたいやうな気がした。お部屋へ行く途中、三部六年の食臺の上にはかはい雪だるまが作つてあった。

お部屋へ入ってから、慰問文のつづきをかいた。

今の楽しかったことを、顔に浮かべながら

かいた。





二月九日

金曜日

一時間目 國語の時間は水師營をおはらした。今度はこうさをするさうだ。二時間目の算数は、外でやった。日のよくあたるところで、かうさをした。分數のかけ算やわり算があった。あとでかへして下さった。

私は八十點だった。先生が、  
「ハッ、點が一番だ。」

とおっしゃったのでとてもうれしかった。

五時間目が終つてから警戒警報發令になった。

私達は病人がたくさんみて、九人になったので一つの防空壕に入つた。みんなでトランプをしたり、あみものをしてたりした。防空壕から出るとおはつた。今日はほすめだ。とてもおいしい「ほりぼり」と音をさせながらおいしくいただいた。

豆



土曜日

二月十日

郊外園につくと六年生が、

「喜門先生もおかひきになったのよ。」

といはれて、はっとした。

「喜門先生が。」

ともういっかい聞いた。なんだかしんばいになって来た。朝會の時、警戒警報發令になったが、今日は新しい

校長先生がいらっしゃるので、防空服裝をしてお掃除をした。私達は前廊下だ。岩丸先生の役わりをして下

った。私は七理さんと三人で、先生方の入口の前の方をた。始め廊下においてある荷物を全部外へ出し

「退避」

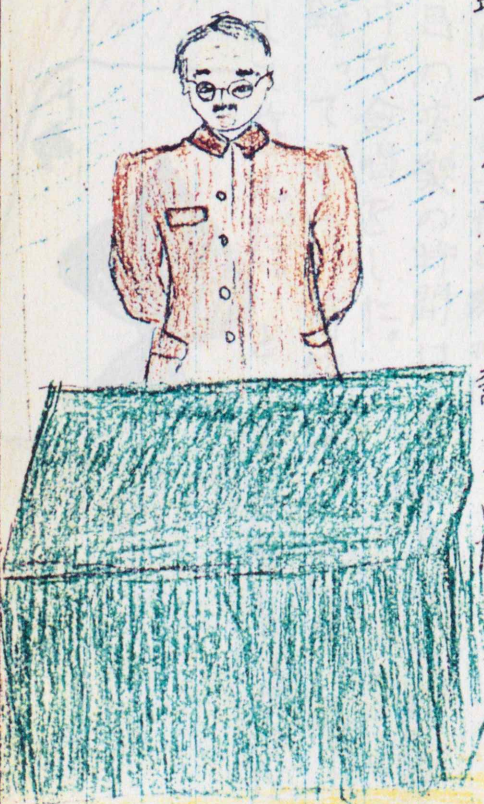
とおっしゃったので、急いで防空壕へ入った。敵機はす

りに行つた。除中で、お掃除がすんでから、村野さんへ病人のおふとんを

「ぼんぼん。」

高射砲が鳴りだしたので木の影へかくれた。

梅街道へ出ると、ちやう度解除になった。歸るとうみんが晝食をいただいてゐた。校長先生も来てらした。御飯がすんでから、校長先生のくんじがきた。式がすんでから日記をかいいた。





二月十一日

日曜日

今日は紀元節だ。空はきれいにすみきりとてもよいお天気だ。お式が終ってから御下賜のお菓子も今日で終りだ。日記をかいてゐると

警戒警報發令。

と先生がおっしゃったのでいそいで防空壕のうへへ行った。解除になるとすぐ昼食だった。今日は白菜やしんじょうかんが出た。久しぶりに白菜だ。とてもおいしい。しんじょうかんときもちのよい音がする。午後はお糸でくす玉を作った。

くす玉

二月十二日

月曜日

二時間目の工作の時はグライダーを作った。もうすぐ出来上がるのでうれしくてたまらない。

よく飛ぶやうにしたいな。

と思ひながらやると、どんどん進んだ。

二時間目の体操の時間は、並んでゐる人をおぶって、あるきまわった。私は堺井さんをおぶった。重くて重くてたまらなかつた。途中でおとしやうになった。

体操をしてゐると

警戒警報發令。

といふ聲が聞えたので、急いで防空服を着た。午後はお風呂だ。あまり早く行きすぎたので、えんがはへ出てまゐつてみた。かうしたちのみを山羊にやたして待った。

山羊

二月十三日

火曜日

今日は、一日中自由がたつた。

二時間目の音楽の時間は、冬景色を習った。今日は三部にわけて合唱をした。

宿舎へ歸ってから、荷物のせいとんをして、トランプをして遊んだ。とてもおもしろかった。



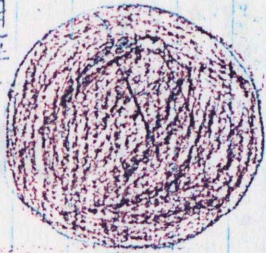


二月十四日 水曜日

工作の時間、グライダーを作ってみると、  
「ボール」。

とさいれんが踊り出した。工作の最後、どうぐをいそいでかたづけけた。  
授業が終わってからボールで中ぶつけをして遊んだ。とてもあたたかくなった。

ボール



二月十五日 木曜日

今日はとても寒い。朝食後お風呂にきをした。時間目もつづいていった。

四時間目はお風呂だ。私はかぜをひいてゐるので手だけ洗った。そのあとで、相良さんと堺井さんと私の三人で中ぶつけをしてあそんだ。すると、

「集合」。

と先生があつしやうだ。もう養所へ体重を測りに行くのだ。せいれつするとい。

「警戒警報発令」。

とおしやうだ。へんたいだから早く用意しろ

私達はいそいで用意をした。三時半ごろやと解除になった。



お風呂にき

二月十六日 金曜日

起きてからふんとんをたたんでおると、

「ホ」

とさいれんがきなりだした。情報を聞くと、  
「小がた二十数機は、静岡地区に進入し東北進しつつあり」。

といた。私達はびっくりした。先生が、

「早く防空壕へ入れ」。

とおしやうだ。学校のやうに椅子も入っていない。しゃがんでおると、すぐつかれてしまふ。

「三時五年ござ取りにいらっしやい」。



とおっしゃったので外へ出た。すると東部軍情

報をいってゐた。敵は軍事使節に投

去せり。私達ははっとした。軍事使節は

みんなだまされてしまった。くやしくてくやしくてた

まらぬ。又防空壕へ入った。九時半頃あまりきけ

んがなくなつたので、いそいで郊外園に行った。

朝食がすんでから一日中壕でくらしした。



二月十七日 土曜日  
起床してきもなく又、警戒警報發令になった。早

く用意して郊外園に行った。郊外園につくと

「たいひー」といはれたのでいそいで待避した。

朝食はおむすび二つづつだ。とてもおいしい。

晝食後だれかが

「白いものがおちて来る」といった。私はびつくりして空の上を見ると、ほ

そ長いものがびらびらとたくさんおちて来た。

「びらだ、びらだ。」

などとさわぎだした。先生が、

「あぶないからさわるな」といふと叫んでいらつした。あとで先生が見せて下

さつた。四十糎位の厚さの紙だった。夕方

警戒警報解除になったのでとてもうれしかった。

二月十八日 日曜日

今日は待ちに待った面會日だ。うれしくてたま

らない。お天気もいいし、これで警報が止まれば

いいなと思った。朝會の時先生からかんざし機

の空襲についていろいろの注意があった。午後

お母様は晝食のちよつと前にいらつした。午後

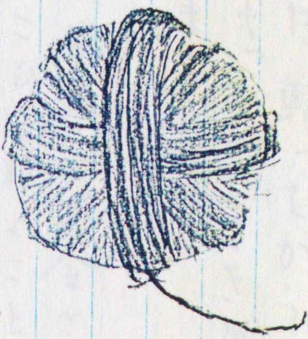
ゆっくりとお話した。お家の方は、なにもや





はばくだんがあらたうだ。私はおきのどくだな  
と思った。今日はお母様は毛糸をもって来て下さ  
った。とてもうれしかった。

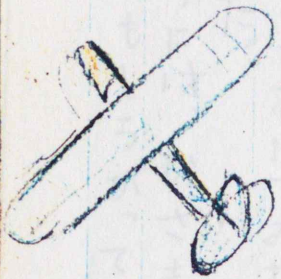
## 毛糸



二月十九日月曜日

一時間目は工作でグライダーを作った。二時間目も三  
時間目も自習なのでつづけてやることになった。いっし  
うけんめいにやった。二時間目頃に来上った。私たち  
一番だ。とてもうれしかった。お部屋へへて艦  
を見た。わりとよくとんだ。出来てから日記をか  
いた。  
書食後警報が出た。警報中私達はさんぱ一を  
するのでいそいで行った。とてもさばりした。

## グライダー



二月二十日

(火曜日)

三時間目は体重そくで行った。私はれいてんさん  
へてしまった。たいていの人はへてふえた人は五  
六人だった。

午後は村野さんへまき取りに行った。先生が、

「五年生はこのまきを全部わけて待ってみなさい。」

先生は六年を一れて配給ものを取りに行って来る  
からぬ。

とおっしゃった。私達はみんなでわけた。さうしてじゃん  
けんをして勝った人はこれ、まけた人はこれときめた。す  
ると村野さんのをうささんが、

「おちさんがくちをくってあげよう。」

とおっしゃって木のえだを折って作って下った。なか  
いのが一番ときめた。さうしてぬいて行った。私は堀井  
さんと二人でふといのをもつて行くことになった。

先生がかへっていらっしやるまでうさぎ小屋へ行つてうさ  
ぎを見てみた。お子うさぎが五六匹ねた。とてもかは  
かった。歸りはおもくておもくてたまらなかつた。

堀井さんと休み休みやつと郊外園についた。郊外園に  
つくとお風呂だった。私はかせきひいてぬるので、まだ  
け洗った。



二月二十一日

(水曜日)

今日はまき取りに行くのでなれを早くから用意した。東村山へつくと、もどってしまった。なんだかわけがわからなかった。帰ってかう先生が「このふきんにもつ」とよいまきがあるさうです。かう午後又行きます。とおっしゃった。

午後急に警戒警報が発令された。解除になった。林を歩く、まきはこびに行くことになった。林を歩く、まきがたくさんあるところへ行った。今日は三本づつだ。とてもかるい。どんだんあるいて行ったので、ずいぶん早くついた。



二月二十二日

(木曜日)

朝目がさめると、もうまどがあいてゐた。ちよとみると雪がたくさん降つてゐた。一日中雪ばかりだ。歸りには、ひざまでつてもゐた。堺井さんと、おもしろがつて雪のたく

さん一つもつてゐるところをあるいたりした。ながぐつの人か前にならんでみちをつくつてゐた。私はおもしろくてたまらない。途中ですべってころんでしまった。でもとても雪がやらかいので、ぶとんにすわったようだった。お部屋にいた時は先生に、ほうきで雪をはらうていたから入った

雪の上でころんだ時



二月二十三日

(金曜日)

朝食後、岩丸先生が「雪合戦をするから、集合」とおっしゃったので、いそいで集合した。今日は、敵の旗もちのぼうしを取った。勝つた。突撃ー突撃ー



と先生のかういふ

うわー

と私達は「こんで行った。どこからか、たまが私のと  
ころへとんできた。だれかと思ったたら界隈さんだ  
はっはっはっは」

と笑っていろいろしゃる。私はしゃくたさはった。雪をなや  
やうとすると雪がやけらくくしちとともなやう  
れない。そのうちに

止めた

がかった。私は負けてしまった。とてもくやし  
た。終てから火ばちでぬれたもんやをかはした。



二月二十四日

土曜日

時間は、防空壕の雪をはらった。始めは六年生  
がさきにやった。五年生はその間に、たなのせい  
とんをした。せいとんがすんでから私達と六年生  
とかがした。

三時間目は国語をやった。  
午後は長ぐつをはいておる人だけおみそを取  
りに行った。バケツを二つつもって行った。

おみそ屋さんは、わりとちかかった。  
歸りはおみそのにはひがぶーんとおみそは  
なについて、なんだかなめたくなるほどだった。  
先生が、

「なめたい人はなめてもいいよ。」  
とおっしゃったので、

「あはははは」  
とわらってしまった。





二月二十五日

日曜日

今日は六年の面會日だ。起床すると急に

「ジョー」

とラジオが鳴りだした。私達は急いで用意をしてすぐ出かけた。途中でさいれんもなりだした。郊外園へつくと、

「たいひー」

とおっしゃったので、私達の壕へいざはいった。すこしすると、先生が椅子をもつて来て下さった。トランプをしておぼろでみると又先生がいらした。こんどはおむすびをもつて来て下さった。おぼろがたぐさんについてゐるのでとてもからかった。あとでとてものがかはいりました。

晝食後あまりさむいので、壕の中へ入った。するとばらばらと雪が降りだした。夕方先生が、部屋へ入れ止。

とおっしゃったので外へ出るともうわりとつもつてゐた。夕食をいただいてゐるとやつかいじまになった。歸りはとてもくらうした。村野さんへ歸ってからお風呂へ入ることになった。私はかぜをひいてゐるのでこたつへ入ってゐた。

二月二十六日

月曜日

朝食後、壕に入れてあった椅子を出した。授業は二時間目から始まった。

五時間目は、先生が、新聞をよんで下さった。それでいろいろな事がわかった。

授業が終わってから足袋の配給があるので、女學校へ行った。私は、赤足袋一つに、白足袋一つだった。とてもうれしかった。

宿舎へ歸ってから、みんなで三月三日の發表會でやるものを考へた。きまった時に警報發令になってしまった。ざんねんだなと思った。

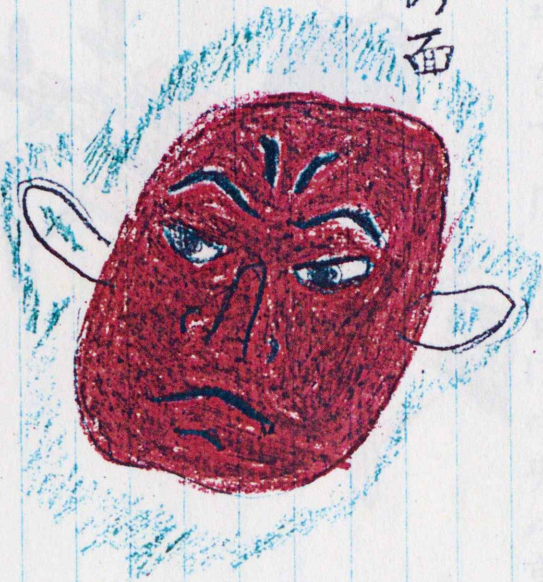


二月二十七日

火曜日

一時間と二時間目は、げきのれん習をした。  
働く天狗といふ題で、私は村の人だ。三時間目  
は、防空壕の雪かきをした。私は、鬼澤さんとセ  
理さんと須田さんとで、二部三年のところをやっ  
た。しゃべるが三つなので、四人でかうたいにやっ  
た。  
午後は天狗のお面をつくったり、木をつくった  
りした。

### 天狗の面



二月二十八日

水曜日

朝會がすんでからすぐ、五六年は米運びを  
することになった。ふろしきを用意して、集  
合した。とても道がわるい。

おみそやさんよりすこし遠い。自動車がある  
と、どろみずをひっかけられるので、「キャー」  
と、遠くの方まで行ってよけた。米屋へ  
行くと、男だけで運んで、私達はもどるこ  
になった。よその家にもう、おひな様がき  
に並べてあった。さうして、子供達がまわり  
来てうれしそうに飛びまはってあつた。それを見  
るとなんだか楽しくなつて来た。

午後はや学校でげきのれん習をした。さうして  
喜門先生に見ていただいた。宿舎へ歸つてかう  
ふくさうをかへて、れん習した。



三月一日 (木曜日)

間目はや学校でげきのれん習をした。三年のお  
屋をおかりしてやった。  
三時間目はお裁縫だ。手がかぢかんでゐて、なか  
すすまなかつた。



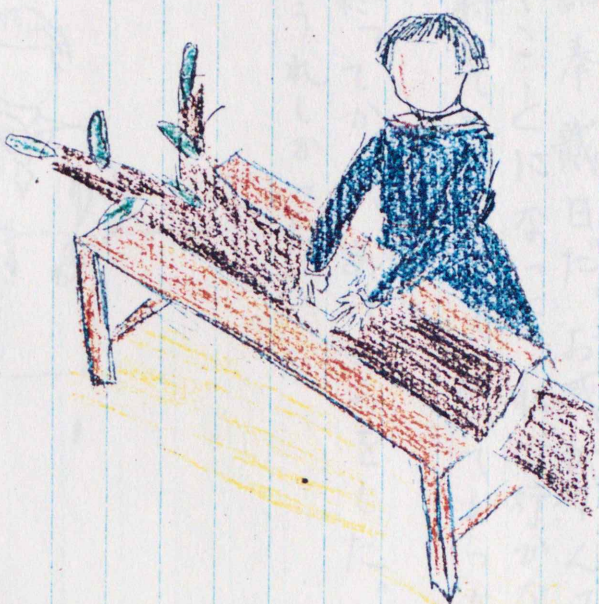
午後は、ごふじやう掃除をした。ごふじやう掃除がすんでから井戸こぎをした。とても暖かくなった。宿舎へ歸ってからあみものをした。

三月二日

金曜日

朝起きてみると、春雨が降つてゐた。

午後はお風呂だったが、私はかぜをひいてゐるのでもけきにつかふ木をはったりしてまゐつてゐた。五時間目は地理をやった。今日は中央の高地をした。



三月三日

土曜日

今日はあひな祭だ。とてもよいお天気で、春らしい。午前中は発表會だ。うれしくてたまらな

朝會がすんでから、六年は、発表會の用意をした。このやうな楽しい発表會の出来るのも、矢野さんのおかげだ。有がたいなと思つた。次々と、おもしろいといわがあつた。八番目には慰問隊の方々が、手品やさりがみなどいろいろなものがあつた。きりがみはとてお上手だ。私もやつてみたいなと思つた。私達は一十二番だった。いっしょうけんめいやった。お晝はお赤飯だった。とてもおいしかった。午後は頭がいたかつたのでりやうよう所へ行つてお薬をいただいてきた。

三月四日

日曜日

朝起きると、警戒警報發令になった。急いでしたくをして、園舎へ行つた。まだ村野さんは来てゐなかつた。朝食は壊のまわりでいただいた。解除になつてかう氣持が悪かつたので、女學校へ行つて寝た。

三月五日

月曜日

時間目は圖畫だったが、エ作をした。出来てから仕上げた。とてもよく飛んだのでうれしかった。三時間目は地理の考案があつた。授業が終つてから、六年生達の記念に多をかいいていただいた。

三月六日

火曜日

今日はかぜをひいて一日中寝た。



三月七日

水曜日

午前中は自習が多かった。  
お晝はおぢやだった。とてもおいしかった。終ると  
警戒警報發令になった。今日はすぐ解除になった。  
解除になってからおしゃう油を取りに行々々事にな  
った。私は今日起きたばかりなので行かなかった。  
音楽の時間は必勝歌を習った。  
今日から外でお勉強だ。とてもうれしかった。

三月八日

木曜日

今日は大詔奉戴日だ。お式がすんでから、まき  
運びに行くことになった。私は行かないで、慰問  
文を書いて持っておた。書き終ってからあみものをし  
て遊んだ。  
授業が終わってから、あみものをした。出来あがった  
のでとてもうれしかった。



三月九日

(金曜日)

今日は朝からとてもよいお天気で、心がはれぐす  
る。朝會がすんでから、松林の日の當る所で、  
六年生とおわかれの會をした。五年の名簿順か  
ら、おわかれことばを言った。私は一番始めだった  
んだかはずかしいやうな氣がした。私達の前に  
並んでいらっしゃる六年生が、明日からは、もう  
この學園にいらっしゃらないとは、ちっとも思へ  
ない。

晝食後お風呂へ入った。とてもよい氣持だ。  
体がきれいになったのでさっぱりした。夕食前  
六年生とお別れの退園式があった。夕食は、み  
んなまるくなくなって、いっしょにいただいた。  
心が明るくなつて、御飯もおいしくいただけた。  
宿舎へ歸ってから、送行會をした。山口先生が  
おさしになるので、さされた人から歌をうた  
たり、よきやうをしたりした。私は歌を歌った。  
二回目にはおし舞を入れた。とてもはすかし  
かった。

おし舞





三月十日

土曜日

今日はいよいよ六年生とおわかれた。朝會がすんでから六年生をお送りした。大きなふろしき包みを背負ってにんにこしていらつした。私達は

「さやうなら」

「がんばれ」

「はりきれ」

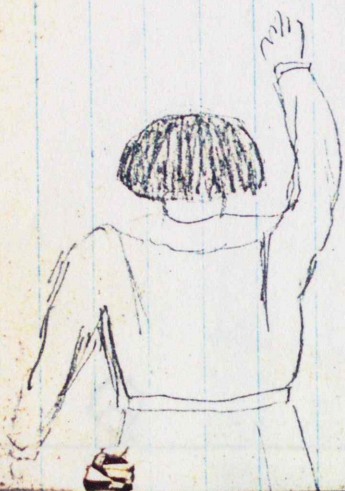
とさげんだ。六年生も、

「さやうなら」

と、今まで楽しく生活して来た園舎を後に、手を振りながら元氣よく歸っていらつした。私達も、やさしい六年生の後姿が見えなくなるまで手を振ってお送りした。

午前中は大掃除だ。私達は本舎を掃いた。箒がたりないのかうたいいして掃いた。お掃除がすんでから裏で日向ぼっこをした。すると急に「ホー」とヤンいれんが鳴りだした。警戒警報だ。でもすぐ解除になった。よかったと思つた。

午後は自由だった。

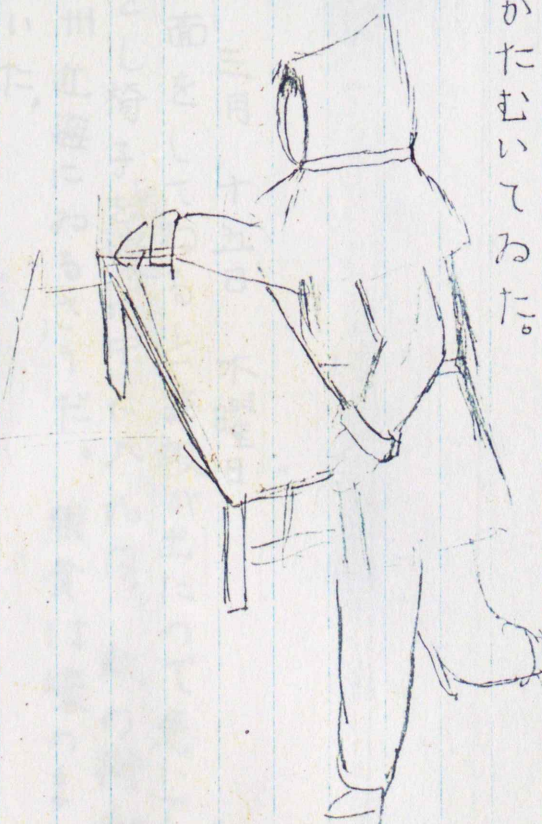


三月十一日

日曜日

今日は四年の面會日だ。お天気だが風がひどい。保坂さんと椅子を裏へ持って行って勉強した。裏はとても暖かくて風もあまりこない。少しすると警戒警報發令になった。たいひはしたがすぐ解除になった。

書食後また警報が出た。園舎の上は敵機の通らなかったので安心した。四年生は面會が出来ないでかはいさうだと思つた。解除になった時は、もう日も西へかたむいてゐた。



三月十二日

月曜日

一時間目の工作の時間はつくろひ物をした。私は校服のぼたんつけをした。二時間目は頭洗ひをした。とてもさっぱりし



た。終ってから先生のくつ下をお洗濯した。  
ごしごし洗った。手がとても暖かくなった。  
午後綴方をかいた。  
夕食前 宮澤さんがえんこ疎開をなさる事になった。  
私達は

「さやうなら さやうなら。」  
となんかいも手を振ってお送りした。

三月十三日 火曜日

午前中は「と地理をやった。おくらてゐるので  
どんどん進んだ。東京から青森までをやった。  
午後 田中さんまで行って國語をした。十四の渡  
氏と平家から十六ぬりもの話まで進んだ。  
休けいの時トランプをしてゐると先生がいろいろし  
「又トランプをしてゐるのか。みんなはトラン  
は香だよ。  
とにこにこなされた。  
トランプがすきなのかと思つて感心した。

三月十四日 水曜日

午前中は綴方の表紙をつけた。私はお食事の  
をかいた。さうして毛糸できれいにとじた。  
午後は体重をきく定に行つた。よく晴れて時々風  
すつと通つて行く。とても気持ちがよい。  
りやう養所では一番最後にはかつた。すこしふ  
たのでうれしかった。  
歸つてから日記をかいた。

三月十五日 木曜日

洗面をしてゐると警報が出たので急いで防空服  
装をし椅子を壕の中に入れた。敵の機動部隊  
が本州近海にゐるさうだ。朝食は壕のまわりでい  
ただいた。  
午前中はお風呂にきをした。今日はすぐわいたの  
ですぐ入った。今日は寒いので外にゐるとかぜひく  
のでお部屋に入つた。  
午後お裁縫をしてゐると先生が



「國語の考えをするぞ」

とおっしゃったのでびっくりした。すぐ用意をした。考さがすんでみうすぐかへして下さるに

先生は

「今日はみんなよく出来た。とおっしゃった。」

三月十六日 金曜日

今日は移轉作業だ。四年生の荷物を持って村野

さんへ行つた。重い元氣よく行つた。麦畠の上に

はひばりが楽しさうにさんづつてゐた。空は雲

一つないとてもよいお天氣だ。心がはれはれして

氣持がよい。村野さんへついてから荷物をおいて

一部五年の荷物を田中さんから運ぶのをお手傳

ひをした。運び終つてせういとんをしてから園

舎へ歸つた。

晝食後三部三年といしよに、落葉集めをした。

たくさんあるのですぐあつまる。三十分位してか

ろ又、宿舎へ行つた。さうして、荷物の置き場所

をきめた。秘達は階だんの近くになった。

三月十七日 土曜日

午前中は落葉集めだ。私は田島さんといしよに  
ござを持って集めに行つた。昨日取つたのであ  
まりなかった。そこで集めてゐると、

「こっちにあるぞー」

「みんなこっちへこーい」

と奥の方から先生のお聲がしたので、奥の方へ行

て見るとたくさんあった。すぐ集める。三四回運

ぶとねん料置場は一ぱいになつてしまつた。こん

度は肥料のを集めた。それから先生に、

「落葉をしいた。終つてから先生に、

「みんなよく働いたので、こんなに集りました。」

とほめて下さつた。とてもうれしかった。すこしや

すんでから晝食をいただいた。



三月十八日 日曜日

今日は私達の面會日だ。目がさめると窓のすきまから朝日がさし込んでゐた。お天気だよ。おはよう。おはよう。起床がかわると、ぱっぱとはね起きた。うれしくてたまらない。今日はどなたがいらして、かなと思ひながら床をたたんだ。

朝會が終ると早くいらつしやうないかとかき根の方ばかり見てゐた。十時頃お姉様と弟がいらつした。裏の日のあたる所で面會した。

茂子お姉様はいままで福島縣へ疎開していらつして今日始めていらつしたので、顔がちがふやうに思へた。弟は二十三日へ宮城縣へ疎開するのでおわかれに來たさうだ。お母様は弟のしたくでいそがしくていらつしやれなかつたさうだ。仲よしの弟と遠くはなれてしまふと思ふとつまづなかつた。すこしするとお風呂なので急いで行った。峯子お姉様はお母様のお手傳ひをするので午前中でお歸りになった。お食事がすむと警報が出たのでお姉様方といつしよに壕に入つた。解除になるとすぐお歸りになつてしまった。